

前田道路／愛知県半田市で合材工場完成、1時間当たり90トン生産



点火スイッチを押す（左から）西依支店長、西川会長、亀井工場長



完成した新アスファルトプラント

前田道路が愛知県半田市市の崎町で建設を進めていた衣浦合材工場が完成し、24日に現地で火入れ式が開かれた。西川博隆取締役会長、西依和浩中部支店長ら関係者約15人が出席し、完成を祝った。

火入れ式では、西川会長、西依支店長、亀井博文衣浦合材工場長が点火スイッチを押し、プラントを稼働させた。続いて関係者らが神前に玉串をささげ、安全を祈願した。

あいさつで西川会長は「無事故無災害で竣工を迎えられたことを関係者に感謝する。地域の役に立てるよう、新施設でこれまで以上に努力していく」と述べた。

1989年稼働の旧プラントが老朽化したため、昨年4月から敷地内で新施設の整備を進めていた。1時間当たりの生産能力は90トン。合材サイロは貯蔵能力100トンと同120トンの2基を備える。プラントをシェルターで囲み、振動や騒音の防止にも努めている。敷地内にある事務所も建て替え、かさ上げによる浸水対策を行った。

1月から本格的に稼働、半田市や岡崎市などに出荷している。設計はアート総合設計、施工は徳倉建設、田中铁工、ニチユウが担当した。

記事ID : 3202203250805